

平成29年度

運営に関する計画

大阪市立横堤小学校

平成29年4月

平成29年度 運営に関する計画

[学校経営の重点]

「生きる力」を育む、感動ある教育活動を推進し、思いやりあふれる学校をめざす。

[本校の教育目標]（校訓）

- ・よく考える子
- ・たくましい子
- ・思いやりのある子

《具体的方策》

1. 基礎的・基本的な内容の確実な定着と、児童の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む。
2. 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに支えあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む。
3. 自らの健康や体力に関心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む。
4. 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む。
5. 地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む。

《めざす子どもの姿》

1. いろいろなことに興味が持てる子ども
2. いろいろな見方ができる子ども
3. 自分で考えることができる子ども
4. 分かち合う喜びを知る子ども

1 学校運営の中期目標

現状と課題

現状

- ・週 2 回の読書タイムや並行読書など機会をとらえた積極的な読書への取り組みにより、本に親しみ、進んで読書する習慣が身についてきた。また、学年に応じた音読、暗唱、視写等の取り組みや教室に国語辞典を常置したことで、言葉への親しみ、語彙の増加をはかることができた。
- ・算数科では児童の実態を把握し、重点単元を選び、計画的に習熟度別少人数や TT による指導を行った。国語科では、一人学びや課題、発問、展開の工夫を行ったり、一人一人のノートやプリントに細かく目を通して児童の学習実態を把握したりすることで、個に応じた指導に努めた。国語科では、全ての学年で単元テストの平均は、平成 25 年度を基準に割合が上回った。算数科 1 年生から 3 年生までは上回ったが、高学年にかけて数値がさがる。
- ・校内の研修会、授業研究会を計画的に進めた。校外の研修にも積極的に参加し、指導力の向上に努めてきた。また、学年等で教材研究を深め、わかりやすく楽しい授業になるよう工夫してきた。その結果、児童アンケートにおける「学校の勉強はわかりやすい」の項目について「そう思う、まあまあそう思う」と答える児童の割合を 80% 以上にすることができた。
- ・道徳教育の充実に努めた。学校生活全体を通して道徳教育を行ってきたことで、多くの児童が人とのかかわり方、命の大切さなど理解することができた。
- ・各学級の児童の実態に合わせ、学校行事など教育活動全般において友だちと協力したり仲良くしたりできる場を設けた。結果、児童アンケートにおける「友達を大切にしている」の項目について、「そう思う、まあまあそう思う」と答える児童の割合を 85% 以上にするという目標を達成することができた。
- ・各学級であいさつに関する授業を行い、意欲が高まった。「あいさつ週間」も積極的に取り組めた。しかし、児童アンケートにおける「しっかりとあいさつや返事をしている」の項目について、「そう思う、まあまあそう思う」と答える児童の割合を 85% 以上にするという目標達成には至らなかった。継続的な啓発とあいさつの必要性とその意義を指導する必要がある。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において上体起こし、立ち幅とびの項目が弱い。

課題

- ・読解力の深化、語彙の増加をはかるためのさらなる手立ての開発が必要である。
- ・今後も個に応じた指導法をさらに工夫していく必要がある。教員の増加、国語科での引き継ぎ、研究を深め、指導法の工夫に努める必要がある。
- ・低学年では元気なあいさつが返ってくることが多いが、学年が上がっていくにつれなかなか聞かれなくなっている。引き継ぎ道徳の学習の時間をの計画的に取り組み充実させる必要がある。家庭への啓発も継続的に行っていくようにする必要がある。
- ・年間を通して、体力向上できる手立てを考えていく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100% にする。
- ・平成 32 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 95%以上にする。
- ・平成 32 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を平成 29 年度～32 年度内で前年度より減少させる。
- ・平成 32 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を平成 29 年度～32 年度内で前年度より減少させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・平成 32 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成 29 年度～32 年度内で前年度より向上させる。
- ・平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率 50%以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 29 年度より 2 ポイント減少させる。
- ・平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率 80%以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 29 年度より 2 ポイント増加させる。
- ・平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、平成 29 年度～32 年度内で前年度より増加させる。
- ・平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、全項目の平均の記録を、平成 29 年度より 0.3 ポイント向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85% 以上にする。
- 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 1・2年生に関して、校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85% 以上にする。
- 平成 29 年度の児童アンケートにおける、「しっかりとあいさつや返事をしている」の項目について、「そう思う・まあまあそう思う」と答える児童の割合を 85% 以上にする。
- 平成 29 年度の児童アンケートにおける、「友だちを大切にしている」の項目について、「そう思う・まあまあそう思う」と答える児童の割合を 85% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における国語・算数で正答率 54% 以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント減少させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における国語・算数で正答率 75% 以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント増加させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である上体起こしと立ち幅とびの平均の記録を、1 年間で 0.3 点向上させる。

学校園の年度目標

- 平成 29 年度の国語・算数の単元テストの平均をだし、その正答率 75% 以上の児童の割合を 1・2 年生で 70% 以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式 2)

大阪市立横堤小学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none">平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。平成 29 年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85% 以上にする。平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">1・2 年生に関して、校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85% 以上にする。平成 29 年度の児童アンケートにおける、「しっかりとあいさつや返事をしている」の項目について、「そう思う・まあまあそう思う」と答える児童の割合を 85% 以上にする。平成 29 年度の児童アンケートにおける、「友だちを大切にしている」の項目について、「そう思う・まあまあそう思う」と答える児童の割合を 85% 以上にする。	

<p>29年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗 状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間計画にしたがい、年間35時間の道徳の学習の時間の充実に努める。 	()
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間35時間の道徳の学習の時間を確実に確保し、その内容を充実させていく。 他教科、領域、行事、すべての学校生活の中での道徳教育を充実させる。 	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達を大切にする気持ちを育むための取り組みを、学級、学年で実施する。 	()
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級、学年で発達段階や実態に応じた取り組みを工夫する。 	
<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が自らすすんでいきさつを行おうとする心情を育てる。 	()
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期中の道徳の学習の時間に、必ず1時間はいさつに関する学習を行う。 児童会の「いさつ運動」週間をきっかけにいさつの大切さや、意義を確認し、取り組みに対する意欲を持たせる。 指導者からの日々の声掛けを増やしていく。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。 平成 29 年度の小学校学力経年調査における国語・算数で正答率 54% 以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント減少させる。 平成 29 年度の小学校学力経年調査における国語・算数で正答率 75% 以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント増加させる。 平成 29 年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である上体起こしと立ち幅とびの平均の記録を、1 年間で 0.3 点向上させる。 <p>(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと)</p> <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度の国語・算数の単元テストの平均をだし、その正答率 75% 以上の児童の割合を 1・2 年生で 70% 以上にする。 	

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗 状況</p>
<p>取組内容①【施策5 習熟度別少人数授業の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する興味・関心を高める共に、習熟度別少人数指導をはじめ、個に応じた指導法を工夫する。 	<p>()</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して計画的に習熟度別少人数の指導等を実施する。 	
<p>取組内容②【施策5 基礎・基本の力を定着させる機会の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の基礎・基本となる読解力や計算力の定着・深化をはかる。 	<p>()</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に読書や視写、計算などに取り組む朝学習を2回設定する。 ・基礎・基本の力を定着させる手立てを工夫する。 	
<p>取組内容③【施策5 話し合う場の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で考えを深めたり広げたりする話し合いの場を工夫する。 	<p>()</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループでの話し合い活動を取り入れる。 ・研修・研究を進め、指導力の向上に努める。 	
<p>取組内容④【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒強化月間（5月・10月）・なわとびタイム（11月）・かけあしタイム（2月）を設け、運動に親しむ機会の充実を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画（別紙参照）通りに年間1回ずつ取り組む。 	
<p>取組内容⑤【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科の学習内容の充実に努め、体力の向上を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科で年間低学年102時間、中学年105時間、高学年90時間を確保し、6つの運動領域の学習を実践する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

